

出土した遺物

小鴨道祖神遺跡では、当時の人々が使っていた様々な道具が出土しています。鎌や刀子など鉄の道具、煮炊きに使用した甕や竈、器や容器として一般的な須恵器のほか、赤く塗られた土師器の坏や皿があります。また、土馬の破片が複数出土しており、集落の中で何らかのお祭りも行っていたと考えられます。

日常の道具

【鉄製品】

竪穴建物の中から鎌の刃先、刀子が出土しました。すっかり錆びて変形しているところもありますが、比較的形がよく分かります。



【煮炊きの道具】

移動式竈は、上部に甕などをおき、焚口から薪をくべて使用していたものと考えられます。移動式と言いつつ、重くて運ぶのは大変です。



土製支脚は、現代でいう五徳のように、火種の横に複数の支脚をおき、その上に甕（当時の鍋）をおいて使っていたと考えられます。地域によって様々な形があり、小鴨道祖神遺跡の周辺では、支脚の真ん中に穴を作るタイプが見られます。



赤く塗られた土器

3区東側の斜面に掘られた土坑などから、赤く塗られた坏（現代でいう碗）や皿が出土しました。外側・内側ともに赤い顔料を塗り、表面が均一になるよう、ヘラなどの道具で磨いています。

中には、土器の内側に、連弧・放射・螺旋といった文様が見えるものがあります。これは、ヘラで磨いた際にわざと描いたもので、当時の人たちの美意識がうかがえます。



令和元年度

令和元年11月9日(土)

おがもさいのかみいせき 小鴨道祖神遺跡現地説明会資料

公益財団法人鳥取県教育文化財団 調査室



掘立柱建物 12・20・21 を検出している様子

小鴨道祖神遺跡とは・・・

小鴨道祖神遺跡は通称「天神野台地」と呼ばれる台地上に立地する集落遺跡です。

平成29年度と今年度の二回に分けて調査を行い、今年度の調査では飛鳥時代から奈良時代を中心とした掘立柱建物24棟、竪穴建物3棟、土坑、溝などの遺構を確認しました。

倉吉市内における飛鳥時代から奈良時代の集落構造がわかる事例は少なく、地域の歴史を解明する上で貴重な調査例となりました。



飛鳥・奈良時代の丘の上の集落

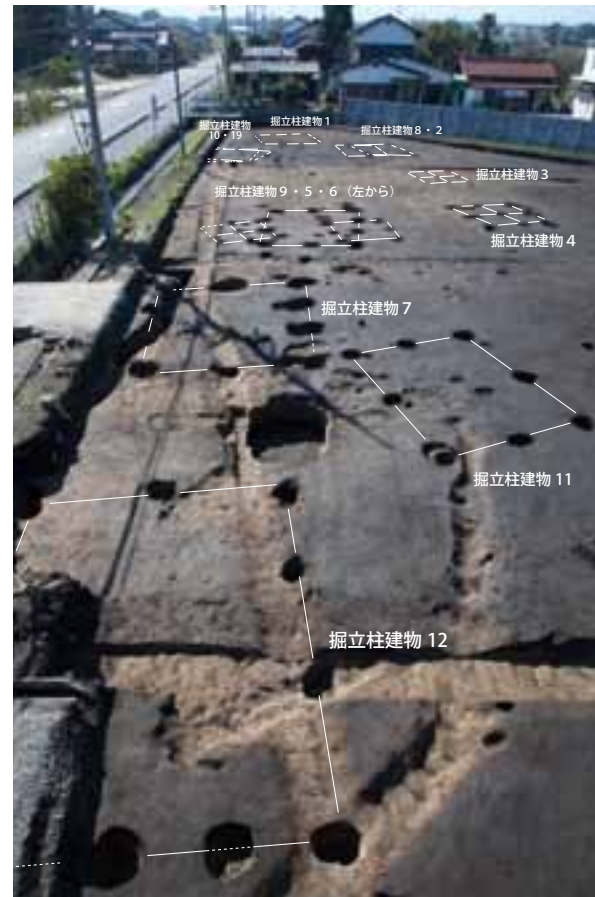
小鴨道祖神遺跡は、飛鳥時代から奈良時代（約 1400 ～ 1200 年前）頃の集落跡です。

平成 29 年度の調査の際に確認されたものを合わせ、^{ほったてばしらたてもの}掘立柱建物 40 棟、^{たてあなたてもの}竪穴建物 5 棟を確認し、調査地周辺に集落が広がっていたことがわかりました。

遺物は、赤く塗られた土師器の坏や皿、煮炊きに使用した甕や竈などが多く見られ、鎌や刀子など鉄の道具も出土しました。



遺跡は見晴らしの良い天神野台地上にあります。丘陵頂部から東側の斜面にかけて集落が広がっていました。



【1区】平成 29 年度に検出した掘立柱建物群



【2区】竪穴建物 5

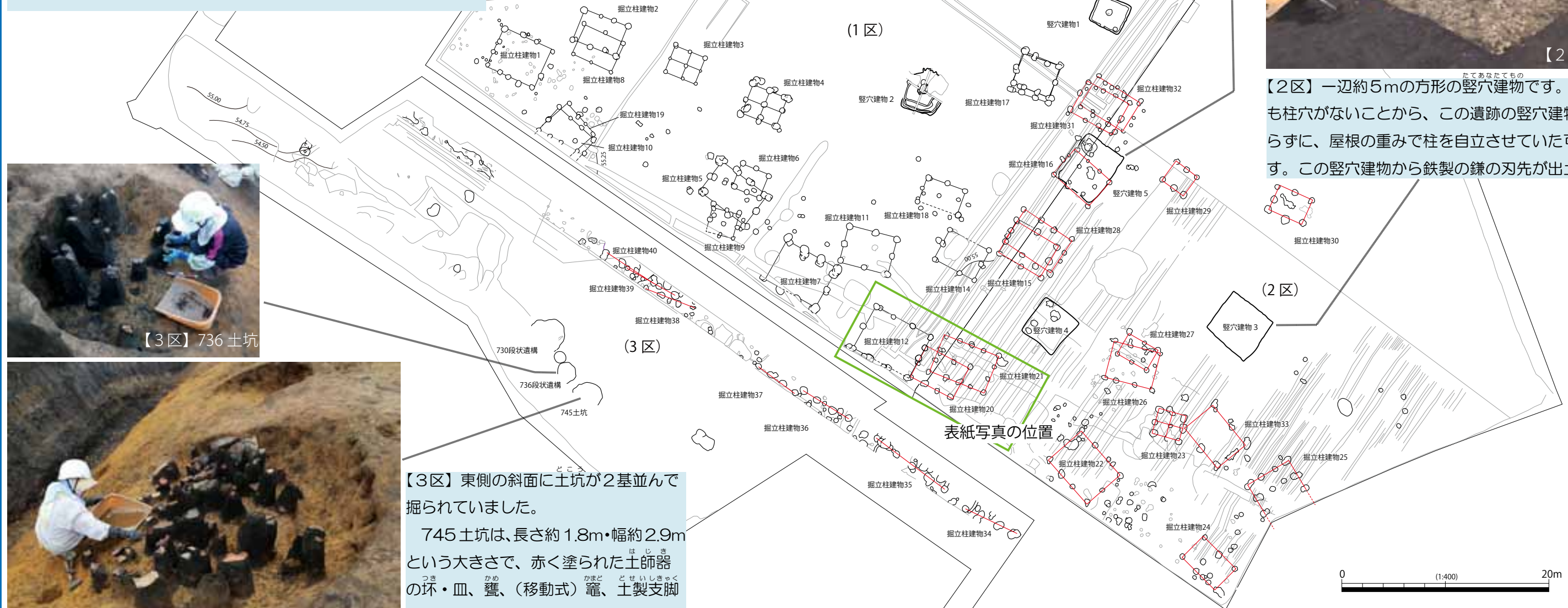
【2区】この^{たてあなたてもの}竪穴建物は地面を四角く掘りくぼめた後、新たに土を敷き詰めて床を貼っていました。床が赤く焼けた箇所もあり、火を焚いていたことも分かります。

写真の黒いシミはこの竪穴建物が埋まった後に上から掘られた別の建物の柱穴で、竪穴建物にともなう柱は確認できません。



【2区】竪穴建物 3

【2区】一辺約 5m の方形の^{たてあなたてもの}竪穴建物です。この竪穴建物にも柱穴がないことから、この遺跡の竪穴建物は、柱穴を掘らずに、屋根の重みで柱を自立させていた可能性があります。この竪穴建物から鉄製の鎌の刃先が出土しました。



【3区】736 土坑



【3区】745 土坑

【3区】東側の斜面に土坑が 2 基並んで掘られていました。

745 土坑は、長さ約 1.8m・幅約 2.9m という大きさで、赤く塗られた土師器の坏・皿、甕、（移動式）竈、土製支脚の破片がまとめて出土しました。